2020 年 3 月 3 日
株式会社東陽テクニカ

悪意あるメールの判別と対応の優先順位付けを自動化する「PhishER」を発売
～大量の不審メールへの迅速な対応を実現～

株式会社東陽テクニカ(本社：東京都中央区、代表取締役社長：五味 勝)は、KnowBe4, Inc.(本社：米国・フロリダ州)が提供する、フィッシングメールなどの悪意のあるメールを自動的に判別し、対応の優先順位付けをするサービス「PhishER※1(Emergency Room：緊急対策室)」を、2020 年 3 月 3 日に発売いたします。

※1 読み：フィッシュイーアール

「PhishER」のダッシュボードイメージ

【 背景・概要 】

2019 年 12 月に被害が拡大した"Emotet(エモテット)"に代表されるような、フィッシングメールによる攻撃が近年、サイバー攻撃の手段として広範に使用されており※2、日々多くのスパムメールや悪意があると疑われる不審なメールが企業に向けて送信されています。これに対して企業は、不審なメールが届いた場合に従業員からシステム管理者へ報告をさせ、システム管理者は報告のあったメールを一つ一つ手動で分析して本当に悪意のあるメールであるかを見極め、対応の優先順位付けを行っているのが現状です。しかし、企業の規模によっては 1 日に数百件もの報告メールに対応しなければならず、手動でこれを行うには多大なコストがかかることに加え、判断基準を一定に保つことが難しいなどの問題があります。

「PhishER」は、報告される大量の不審なメールの判別から対応の優先順位付けまでを自動化します。これによりシステム管理者は悪意のあるメールに対して正確かつ迅速な初動対応を行うことができ、フィッシングメール攻撃による被害を最小限に抑えることが可能となります。また、Virus Total※3 や SIEM※4 プラットフォームなどと連携した SOAR※5 を実現することができます。

株式会社 東陽テクニカ www.toyo.co.jp
〒103-8284 東京都中央区八重洲1-1-6 本社(代表)TEL 03-3279-0771
大阪支店 TEL 06-6399-9771 / 名古屋営業所 TEL 052-253-6271 / 宇都宮営業所 TEL 028-678-9117

【 「PhishER」の主な特長 】

「PhishER」は、ルールの適用⇒タグ付け⇒アクションという一連の流れで不審なメールをグループ化・カテゴリー分けします。

「PhishER」の機能イメージ

1. 自動メッセージ優先順位付け(トリアージ)

報告された不審なメールを『Clean(正常)』、『Spam(スパム)』、『Threat(脅威)』の三つのカテゴリーの中から一つに分類し、優先順位付け。

2. Phish Alert ボタンとの連携

メーラーのアドイン機能として組み込まれる Phish Alert ボタンを押すことで、従業員はワンクリックで不審メールを管理者へ報告でき、報告されたメールは専用のメールボックスへ転送することが可能。

3. PhishML(Machine Learning)モジュール

悪意あるメールの特定に利用するデータは機械学習によって蓄積され、メールの分類・優先順位付けはそれを基に実行。

4. Virus Total や SIEM プラットフォーム(Splunk、QRadar など)と連携

5. クラウドベースのサービスで、セキュリティ意識向上トレーニング＆フィッシングシミュレーション「KnowBe4」との連携も可能

6. 最小提供ライセンス規模は 101 人以上

※2 IPA(情報処理推進機構)の「情報セキュリティ 10 大脅威 2020」、「情報セキュリティ 10 大脅威 2019」では 2018 年まではランク外であった『フィッシングによる個人情報の搾取』が、2 位にランクインしている(IPA の Web サイトより)。

■「情報セキュリティ 10 大脅威 2020」：https://www.ipa.go.jp/security/vuln/10threats2020.html

■「情報セキュリティ 10 大脅威 2019」：https://www.ipa.go.jp/security/vuln/10threats2019.html

※3 ファイルをアップロードしたり、URL を入力したりすることで、ファイルやウェブサイトのマルウェア検査を行うウェブサイト。

※4 Security Information and Event Management(セキュリティ情報イベント管理)の略。セキュリティソフトの一つで、セキュリティ機器やネットワーク機器などからログを収集して一元的に管理することでセキュリティインシデントを検知・分析するもの。

※5 Security Orchestration, Automation and Response の略。セキュリティに関する運用の自動化と効率化を実現するための技術で、「インシデント情報の集約・分析・優先順位付け」、「インシデント対応の自動化」、「インシデント対応状況の管理・外部脅威インテリジェンスの活用」の構成要素から成り立っている。

株式会社 東陽テクニカ www.toyo.co.jp
〒103-8284 東京都中央区八重洲1-1-6 本社(代表)TEL 03-3279-0771
大阪支店 TEL 06-6399-9771 / 名古屋営業所 TEL 052-253-6271 / 宇都宮営業所 TEL 028-678-9117

＜KnowBe4, Inc.について＞

KnowBe4 社は 2010 年 8 月に設立され、米国のフロリダ州に本社を構える世界最大級のセキュリティ教育ソリューションベンダーです。ハッキングに関する知見において世界でもトップクラスの人物である Kevin Mitnick 氏が CHO(Chief Hacking Officer)を務めています。2018 年に、注目を集める革新的なサイバーセキュリティ企業を評価する「Cybersecurity 500(Cybersecurity Ventures 社)」で第 2 位にランクインし、2019 年には Gartner 社の"Magic Quadrant"で最高評価を獲得するなど高い評価を得ています。従業員数も 900 人を超え、今急成長している企業です。

KnowBe4 の Web サイト：https://www.knowbe4.jp/

＜株式会社東陽テクニカについて＞

東陽テクニカは 1953 年の創立以来、世界最先端の計測機器の輸入販売を行ってきました。 現在の事業分野は、情報通信、自動車、エネルギー、EMC(電磁環境両立性)、海洋、ソフトウェア開発、ライフサイエンスなど多岐にわたり、独自の計測技術を搭載した自社製品の開発にも力を入れ、国内外へ事業を拡大しています。「"はかる"技術で未来を創る」のスローガンのもと、5G(第 5 世代移動通信システム)の普及や自動運転車開発なども支える最新ソリューションを提供することで、安全で環境にやさしい社会づくりと産業界の発展に貢献してまいります。

株式会社東陽テクニカ Web サイト：https://www.toyo.co.jp/

★ 本件に関するお問い合わせ先 ★

株式会社東陽テクニカ 情報通信システムソリューション部
TEL：03-3245-1250(直通)　　E-mail：ict_security@toyo.co.jp
「PhishER」製品ページ：
https://www.toyo.co.jp/ict/products/detail/knowbe4-phisher.html

株式会社 東陽テクニカ　www.toyo.co.jp
〒103-8284 東京都中央区八重洲1-1-6　　本社（代表）TEL 03-3279-0771
大阪支店 TEL 06-6399-9771 / 名古屋営業所 TEL 052-253-6271 / 宇都宮営業所 TEL 028-678-9117